

「孤独死・孤立死」の実態把握に関するワーキンググループ（第4回）

議事要旨

1. 日時 令和5年12月19日(火) 15:00~16:15
2. 場所 オンライン開催（ビジョンセンター永田町 8階802号室）
3. 出席者
構成員：石田 光規座長、金涌 佳雅委員、斉藤 雅茂委員
オブザーバー：警察庁、厚生労働省
事務局：内閣官房孤独・孤立対策担当室、株式会社サーベイリサーチセンター
4. 議題
 - (1) 「孤独死・孤立死」の実態把握に関する中間論点整理（案）について
 - (2) その他
5. 配付資料
 - ・資料1-1：「孤独死・孤立死」の実態把握に関する中間論点整理（案）
 - ・資料1-2：「孤独死・孤立死」の実態把握に関する中間論点整理（案）のポイント
 - ・参考資料1：「孤独死・孤立死」の実態把握に関するワーキンググループ（第3回）議事要旨
6. 議事要旨
 - (1) 「孤独死・孤立死」の実態把握に関する中間論点整理（案）について
内閣官房より「孤独死・孤立死」の実態把握に関する中間論点整理（案）について説明。
主な意見は以下のとおり。
【2 実態把握の必要性等】
 - ・「実態把握の必要性等」と書かれているが、前段はこれまでの経緯的な内容になっているので、小見出しを付けるなどして、2つに分けたほうがわかりやすいと思う。
 - 必要性につながっている「孤立死・孤独死」に関連する動向」の段落以降とそれ以前とに分割する。
 - ・「不動産等の経済的価値の下落の問題」は、新たな排除を生むおそれがある。“価値が下落するから対策が必要”と受け止められると、“孤立死リスクの高い人に部屋を貸さない”という話になりかねない。
 - ・必要性として考えると「社会経済的な影響」くらいか。
 - ・不動産業界への特別なメッセージがあるならまだしも、「社会経済的な影響」のほうがいい。

・「不動産等の～問題」を残すにしても、「死後手続の関係」と順番を入れ替えたほうが良いと思う。死後手続きは皆が行うことで、影響としては大きい。不動産に関する特殊清掃のようなコストは現実問題としてあるものの、書き方は注意が必要。

→順番を入れ替え、「不動産等の～問題」は「社会経済的な影響」とする。不動産以外にも遺骨の扱いなどの影響が発生するので、具体的な中身は、そういった社会的経済的な影響が発生している旨を記載する。

【4 孤立死の定義について】

(1) 概念的定義

・概念的定義に「相当期間」とあるが、1、2週間以上とか、かなり時間が経過しているようなニュアンスが感じられる。文言を削って「遺体が死後に発見されるような死亡の態様」とするか、例えば「一定の期間」などにはどうか。

・文言を削ってもいいと思うが死後すぐに発見されるケースもある。「相当期間」というのは、“標準的な期間があって、それに対して相当超過している”ように受け取られるのではないか。

→操作的定義を考慮し、「一定の期間の経過後」に修正する。

(2) 操作的定義

・「②世帯類型」に関する意見について、WGの結論として、“数の少ない複数世帯は定義に含めなくていい”と読める。WGでは“利用可能なデータからすると、今回は含めなくてもよいのでは”といったトーンであった。

→そういったことから、基本的な考え方は、「利用可能なデータも踏まえつつ引き続き検討」としている。「発生数が少ないのであれば～」の文章が余分に感じるので、これを削る。

・「数としてはかなり少ない」というのも実感として発言したものである。高齢夫婦世帯がさらに増えれば、複数世帯での孤立死が増えるかもしれない。「複数世帯のことも含めて検討課題である」ということが、この文章で読み取ればよい。

→いただいた意見を参考に修正する。

・資料1-2の基本的な考え方について、現実的な測定データを考慮するという制約のある中で出したものであり、最適解とか学術的な正解として出したものではない。にもかかわらず、これが正しい定義であるかのように受け取られかねないので、注を入れたほうが良い。

→現実的な測定データを考慮する中から導き出したものと分かるように注を入れる。